

応用物理分野における女性研究者・技術者の活躍

Activities of woman researcher and engineer in the field of Applied Physics

横浜国大 成長戦略研究センター °為近 恵美

YOKOHAMA National Univ., Center for Economic Growth Strategy, °Emi Tamechika

E-mail: tamechika-emi-vc@ynu.ac.jp

2001 年 7 月に応用物理学会において、男女共同参画委員会が発足してから 15 年の歳月が過ぎた。この間、内においてはシンポジウムや実態調査などを行い、外に対しては本学会の呼びかけにより、理工系学協会が連携する男女共同参画学協会連絡会を発足、継続的な取り組みを行ってきた。

初年度に委員会が学会内部で実施した男女共同参画に対する意識調査結果から、男性は環境整備が必要と考え、女性は、社会変革や意識改革が重要だと感じていることがわかった。その後、似たような調査があちこちで行われているが、この 15 年で、意識改革はなされたのか。

女性研究者の数は増えてきたが、未だ女性研究者を取り巻く環境や社会の変革、意識改革は十分にはなされていないのではないかと。この点をふまえて未来に向けた多様性のあり方について議論したい。

前段では、立ち上げ後 15 年になる応用物理学会における男女共同参画の活動についてまとめ、女性研究者を取り巻く環境の変化について述べる。特に、本シンポジウムのような女性研究者の集まる技術系のシンポジウムに対する取り組みの意義についても言及したい。

後段では、自身の企業での経験と周辺データにより、企業における女性研究者、技術者の実態とそれを取り巻く環境について議論する。

また最後に、これから博士課程を目指す研究者に対していわゆるアカデミアだけでなく、研究者としても多様な選択肢があることをメッセージとして示すと共に、企業のマネジメント部門に対しても女性研究者、博士課程修了者の可能性に目を向けるよう促したい。